

こころみ

平成24年 3月 5日
担当 教務主任会

「確かな学力」の向上を図るために

「確かな学力」向上を図るために、第7次提言3年計画の1年目となる各学校の施策をまとめた「パワーアップ」が発行されました。その目標達成のために、＜3か年で、各学校で取り組む共通実践事項＞

- ①学力向上を目指した各学校間の積極的な連携
 - ②「活用する力」を育てるための授業づくり
- が設定されています。この「こころみ」でその取組について紹介していきます。

「活用する力」を育てるための授業作りについて

「活用する力」を育てるための、教科指導と日常的・継続的な指導について紹介します。

1 教科指導から

(1) 「考えることが楽しい」算数科の授業実践

児童の実態を考慮しながら、「考えることが楽しい」と思える学習内容や教材・教具の開発に取り組みました。

具体的には、教科書に記載されていないような発展的な内容を扱ったり、算数・数学自体がもつ不思議さや美しさに触れさせる内容を扱ったりしています。また、算数の「言葉」とも言うべき簡潔な式で事象や数量関係・規則を表現する授業にも、複数の学年にわたって系統的に取り組んでいます。

①発展的な内容に挑戦する授業

【例1】第5学年「計算のきまりを見直そう」～インド式秒算術～

【例2】第5学年「三角形・四角形の面積」～既習事項の活用～

②式で表現することを重視する授業

【例3】第5学年「内角の和」～多角形の内角の和の一般化～

(2) 「イメージ図」と「ことばつなぎ」を取り入れた理科の授業実践



「イメージ図」は、自然事象に対する考えを子どもなりに表現したものであり、自然事象を理解する上での根拠を、目に見えない部分も含めて絵に表したり言葉を添えて表現したりするものです。また、「イメージ図」を描くことにより、その実験の事象がおこる根拠を考える力を向上させていくことができます。「ことばつなぎ」は、自然事象における主な言葉と言葉を、その時の自然事象をおこすものの性質を表す言葉でつないで表現するものです。それぞれの実験の「ことばつなぎ」を行うことにより、最終的にはそれらの関連した自然事象を考える方向を広げることができるようになります。

(3) 「考えさせる意図的な立ちどまり」を取り入れた国語科の授業実践

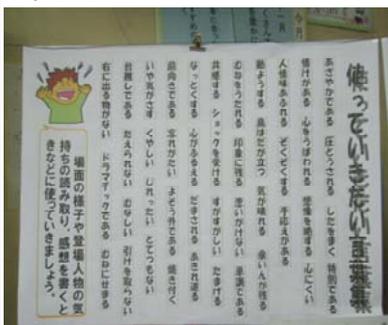
作品や文章中の言葉が、その場所で使われていることには理由があります。また、文には核となるキーワードがあります。そこで、授業中に、意図的に児童を立ち止まらせ、言葉を比較させ、言葉の意味を考えさせることで、言葉についての理解を深化させる場を設定します。この積み重ねにより、言葉に対する感覚も磨かれ、文章の内容をつかむ力が高まっていきます。そして、作品から作者や筆者の思いまでも感じ取り、読むことの楽しさを覚えることができます。



2 日常的・継続的な指導から

(1) 言葉を選択し、文章をまとめる力を育てる指導

授業の振り返りの場で、キーワードとなった言葉を大切にまとめて指導しています。



(2) 日々の生活の中で生きた言葉を指導

朝の会などの時間を利用し、日常生活のなかで気付いた季節の移ろいなどを話し合う場をもたせています。(表現タイム)言葉が生きたものとして、日々の生活の中で活用されていることを実感できる機会を与え、同時に、実際に季節感を感じながら活用できるよう指導しています。

朝の会の次第

- 1 あいさつ
- 2 歌
- 3 表現タイム
- 4 健康観察
- 5 お話



(3) 辞書の活用

児童には手元に辞書を置き、言葉の意味を調べたい時に調べられるようにさせています。多くの言葉には複数の意味があるため、文脈等を踏まえた適切な意味が選択できるように指導しています。学習活動においても、意味がしっくりこない語が存在することに気付くようにもなります。そのような時は、児童全員で意味調べをし、全員で確認するようにしています。こうすることで、児童は言葉の意味を適切に理解し、その言葉を自分なりに活用できるようになります。このように辞書を活用し、意味調べの指導を重ねることで、言葉の感性を育てています。

小・中連携の推進について

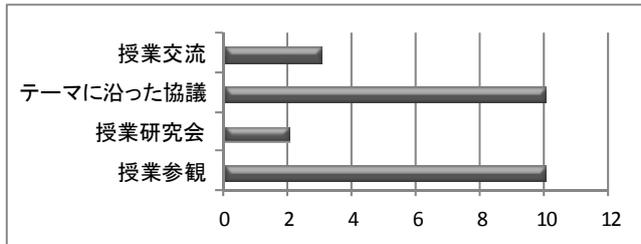
大館市第7次学力向上対策において、各学校で取り組む共通実践事項には、「学力向上を目指した各学校の積極的な連携」があります。そこで、市内10校の小・中連携の実際についてまとめてみました。
(中学校教務主任アンケートから)

1 小・中連携研究会の回数と実施時期について

1回…4校（7月2校、9月2校）

2回…6校（5～7月が1回目、11～12月が2回目の学校が大半。2月に2回目実施が1校）

2 連携研究会の内容について



協議のテーマ

- ・9年間を見通した学力の向上と心身ともに健康な児童・生徒の育成
- ・言語活動
- ・中一ギャップへの取組
- ・学力向上を支える生活リズムの確立に向けて
- ・分科会毎

3 学力向上のための取組と成果が見られた内容について

- ・共通実践事項の確認
- ・学び合いの時間の確保（発表・話し合い）
- ・学習課題の提示の仕方
- ・系統性を考えた指導事項の情報交換
- ・授業提供と授業力向上に向けた意見交換
- ・学習のルール（ハンドサイン）
- ・話す場面の設定
- ・板書
- ・環境作り（校内掲示）
- ・帰りの会での家庭学習の計画
- ・一人勉強ノートの紹介

◎共通実践事項の作成により、連携の方向性や課題が明確化されています。また、小・中学校相互の授業参観を実施することで、教師の指導力向上や授業改善につながっているようです。さらに、学力向上の土台となる基本的な生活習慣の確立について、小・中学校が協力して、家庭に配布する啓発資料を提供している中学校区もあります。

※連携研究会以外の連携した取組

- 中学校体験入学時の合同授業
 - 外国語活動への中学校教員の参加
 - 指定訪問等への参加
 - 合同の書写・絵画作品展
 - 食育活動への栄養職員の派遣
 - ◇あいさつ運動
 - ◇養教部会による中学校区の保健便り
 - ◇保健指導の共通実践
 - ◇合同行事（運動会・クリーンアップ）
 - ◇毎週の学級通信のやりとりと掲示
 - ◇登校時の街頭指導
 - ◇ボトルキャップ回収
 - ◇携帯電話使用のルールの徹底
 - ◇小学校町内会での中学生による危険箇所説明と集団下校
- ：学力向上を目指した取組
◇：その他



第二中学校区では、養護教諭の先生方が、「睡眠と学力」について話題提供してくださいました。資料は、PTAや学級活動で活用されています。

新学習指導要領の全面実施により、授業時数が増えるため、各校において行事の精選が図られていると思いますが、小・中連携研究会の持ち方も来年度の課題と言えます。授業カットを極力抑えた、研究会以外の連携の在り方について、来年度の展望をもっておきたいものです。アンケートから、養護教諭の先生方の連携が進んでいることがよく分かりました。この取組をお手本として、より実質的な連携を目指していきましょう。